

ガーリック + 通信



第28号 2011. 10. 16 発行



知りたい！聞いておきたい！水や食べ物と放射線の話

「カフェ円卓」開催への思い

2011年3月11日午後2時46分に三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生しました。未曾有の大地震と津波の被害に続き、福島第一原子力発電所の事故をめぐって、放射線・放射性物質に関する情報や難しい言葉等が一度に溢れ出てきました。一般市民には理解するのが非常に難しく、苦勞している状況です。



「知らないのは不安」「分からないから不安」という思いを抱えていらっしゃる方が多いのではないかと感じました。「知らない」や「分からない」の部分に少しでもお役に立てたらという思いから「カフェ円卓」を急遽開催することにしました。

第1回目は4月22日(金)、講師は円卓会議会員であり、独立行政法人 日本原子力研究開発機構の小林泰彦氏に「放射性物質の基礎を学ぶ」、独立行政法人 食品総合研究所の等々力節子氏に「基準値について」のお話を伺いました。

第2回目は5月30日(月)、第1回目と同じ講師、小林泰彦氏に「続・放射性物質の基礎を学ぶ」と題してお話を伺い、その後、会員でもある、社団法人 日本原子力産業協会の坂上千春氏に「測ってみよう身近な放射線」ということで簡易放射線測定器を使って放射線測定体験コーナーを担当していただきました。

「カフェ」なのに・・・

都内区民館で2回のカフェ円卓が開催されましたが、参加費無料で行ない、会場はスクリーンもなかったために模造紙で代用。そして「カフェ」と言いながら“お茶”も“お菓子”も出ませんが、代わりに“おしゃべり”や“コミュニケーション”を楽しんでいただく趣向となりました。





第1回 カフェ円卓「放射性物質の基礎を学ぶ」

日時：4月22日(金)18:30～

参加者：36名(アンケート回収数 34名分)

講師：独立行政法人 日本原子力研究開発機構 小林泰彦氏
独立行政法人 食品総合研究所 等々力節子氏

資料：<http://food-entaku.org/kouza/food-entaku-litera20110422.pdf>

「放射線の基礎を学ぶ」小林氏お話のポイント

- ・放射線と放射能は自然界の一部
- ・放射線の種類と性質、ニュースに出てくる単位
- ・人体への影響の有無は、浴びた放射線の量による
- ・2種類の健康影響：急性障害、発がん確率の増加
- ・放射線はどんなに微量でも有害か？
- ・食べても大丈夫？「暫定規制値」の基本となった考え方と、導き出された数字の持つ意味



《参加された皆様からのご意見など（アンケートから）》

- ・大変興味深いお話をありがとうございました。
等々力先生の冒頭のお言葉「私は専門家じゃないんです」に少しびっくり。食総研で照射食品を研究されている方が！おそらく？こんなところが壁になって理解が進まないのかも・・・なんて思いました。
- ・大変参考になりました。また参加いたします。
- ・“意識を変える”ことが出来るか！
- ・学生への“リスクコミュニケーション”を頑張りたいと思います。
- ・「難しいけれど考えてみよう」
大多数の人は、ベクレル・シーベルト＝耳慣れない単位が出てきた段階で疲れを覚えている。自分に利害が及ばなければ、真剣に考えてみない。
危険と思われるところから少しでも遠くへ行く、買わないで対処しています。
少数の人が積極的に「福島の野菜」を買ったりしています。そういう人には「難しいけれど考えてみよう」という呼びかけは通用すると思います。
「自分では決断しないけれど、不都合があった時に文句を言う」これは日本人だけなのでしょうか？本当かどうか、気をつけていきたいと思います。

・ちょっと聞き逃してしまいました。

なぜ、同じ線量でも少ない線量を長期間浴びた方が影響が少ないのですか？

今回の事故では放射化していない事は理解しましたが、どういう条件が揃うと放射化するの
かと、放射線壊変図の見方を今後知りたい。

I A E Aの食品の標準物質のお話がありました。それと出荷制限が解除された物を比較する
のにどういう意味があるのか、もう一度解説を伺いたいです。

c p mからG yへの変換はできますか？どういう意味がありますか？

・風評被害の多くは、売るのが面倒と考える流通大手が作っていると思います。多くの消費者
は情報さえあれば冷静に応援の気持ちを込めて購入するように思います。円卓の存在意義は
益々大きくなっていると思います。

・ありがとうございました。

・野菜などの放射線の測定法を知りたかった。洗い流せば問題ないと思います。

・大変タイムリーな話題提供をしていただき、ありがとうございました。

・この事態が議論の突破口となることを願っています。

・とてもわかりやすく楽しく聞かせてもらいました。

何がこわいのか分からないけど不安といった人が多いと思います。国の発表の仕方にも問題
があると思うのですが、小林先生のような説明を放送したらいいのにとおもいます。

食品の安全基準についても一番低いデータを基にして基準値にしていることも理解できた
のでとても安心しました。ありがとうございました。

・お疲れ様でした。

・放射性物質に関する基礎知識がほとんどないため十分に理解できませんでした。

が基準がより安全を見込んで決められていること、必要以上にパニックにならなくても良い
ことなど、学べて良かったです。日頃、聞くことが出来ない専門的な話をありがとうございました。

・熱のあるお話、専門性の高いお話をありがとうございました。

心配しすぎによるマイナスのお話、全く同感です。

今回の円卓会議とは離れますが・・・

(しかし、想定外が多く発生している現状から考えると、もう少し最悪のケースの提示が有
り、多くの皆が冷静に受けとめることができればいいなあと考えます)

・放射性物質・放射線・放射能について無闇に恐れる必要がないことがよくわかりました。

政府が広く国民に向けて発信してほしいと思いました。生活する中には、もっと恐ろしい
リスクがたくさんあるのであまりストレスに感じないように生活していきたいと思います。

・レベルが高くてついていけなかった部分がありました。

小林先生はいろいろデータをグラフで見せてくれたのでわかりやすかったと思います。

・安全であるかどうかを決めて下さいという文化について、やはり今後、議論していかなけれ
ばならない。

・皆様、非常に勉強熱心な方々が多くてびっくりしました。

この会議には初めて参加させて頂きましたが、また興味ある内容の会議がありましたら、ま
た参加したいと思います。

興味ある内容・・・多剤耐性菌、農薬、遺伝子組換え食品

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

- ・理解できていない部分がまだありますが、自分でも勉強したいと思います。
等々力先生の計算の話は非常に勉強になりました。
公開講座にはまた参加させていただきます。
- ・お二人のお話を整理して、小林様を示されたスライドのような形にまとめて下さるととても良いと思いました。自分でも少し考えてみたいです。今回のような話は、社会経済的背景も大事なのでこの分野の方とも討論できると良い。



第2回 カフェ円卓「続・放射性物質の基礎を学ぶ」

日 時：5月30日(月)18:30～

参加者：15名

講 師：独立行政法人 日本原子力研究開発機構 小林泰彦氏
社団法人 日本原子力産業協会 坂上千春氏

資 料：<http://food-entaku.org/kouza/food-entaku-cafe20110530.pdf>



左から：「はかるくん」2台、
アルファちゃん、ベータちゃん



ベータちゃんを使って“じゃがいも”から
放射線が出ていることを確認中

第2回カフェ円卓では小林氏のお話後、坂上氏に簡易放射線測定器の仕組みや使い方を説明していただき、参加者全員で目に見えない放射線を体験しました。参加した千葉さんは日常使う昆布を試し、針が振れて楽しかったそうです。「自然の放射線がある」ことを誰もが分かるよう、教育現場でこのような教育目的の測定器を使って授業が出来ることを願う、とのことでした。

坂上氏が用意された、いろいろなものに測定器を近づけて線量を計測してみると、今更と思える質問や素朴な疑問を気軽に口にすることが出来、小林・坂上両氏のお答えに、北海道教育大学の鶴飼先生がご説明を加えてくださり、和やかな雰囲気です。アツという間に時間が経ちました。(飯塚 記)